

平成30年度科学研究費助成事業を公募

平成30年度の科学研究費助成事業について、次の研究種目の募集を開始しました。

文部科学省取扱い分

「新学術領域研究（※）」 「特別研究促進費」

日本学術振興会取扱い分

「特別推進研究」 「基盤研究」 「挑戦的研究」 「若手研究」 「奨励研究」 「研究成果公開促進費」

公募内容、応募手続きについては、それぞれの公募要領をご覧ください。

● 文部科学省科学研究費助成事業ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm

● 日本学術振興会科学研究費助成事業ホームページ

<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

「国際共同研究加速基金（帰国発展研究）」を公募

海外の研究機関等において優れた研究実績を重ねた、独立した研究者が日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう、研究費を支援する「国際共同研究加速基金（帰国発展研究）」について、平成29年度の募集を開始しました。

「国際共同研究加速基金（帰国発展研究）」は日本国外の研究機関に所属する日本人研究者が日本の研究機関を介さずに直接応募することとなっております。公募内容、応募手続きについては、公募要領をご覧ください。

日本の研究機関におかれましても、研究機関間のネットワークや海外関係機関等を通じて、可能な範囲で、関係者への周知をお願いいたします。

● 日本学術振興会科学研究費助成事業国際共同研究加速基金ホームページ

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/index.html

平成30年度概算要求の公表

文部科学省の平成30年度概算要求が公表されています。

科研費の概算要求額は、平成29年度予算額と比べ、164億円増の2,448億円です。

助成水準を確保しつつ、中核的研究種目の充実を通じた「科研費若手支援プラン」の着実な実行や国際共同研究の一層の強化を図る取組等を要求しています。

● 平成30年度文部科学省 概算要求等の発表資料一覧（平成29年8月）

http://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/h30/1394881.htm

平成29年度科学研究費助成事業の交付内定（6月1日以降）

「科研費NEWS 2017年度VOL.1」で平成29年5月31日現在の交付内定状況についてお知らせしたところですが、それ以降、以下の研究種目について交付内定を行いました。

「新学術領域研究（研究領域提案型）の新規の研究領域（※）」

※ 「国際活動支援班」に応募した研究領域への交付内定を含む。

「挑戦的研究（開拓・萌芽）」

「基盤研究（B・C）の特設分野研究（新規）」

「研究活動スタート支援（新規）」

「特別研究員奨励費（第2回・第3回）」

「科研費審査システム改革2018」の概要

審査の質を高め、より独創的な研究を振興することを目指し、平成30年度科研費（平成29年9月公募）から、新たな「審査区分表」と「審査方式」により、公募・審査を行います。

- ・従来の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、「小区分」、「中区分」、「大区分」で構成される新たな「審査区分表」で審査を行います。
- ・現行の書面審査と合議審査とを異なる審査委員が実施する2段階審査方式から、書面審査と合議審査とを同じ審査委員が実施する総合審査方式と、同じ審査委員が書面審査を2回行う2段階書面審査とを導入します（研究種目によって異なる審査方式となります）。

詳細については、以下のホームページをご覧ください。

●文部科学省「科研費改革の動向」http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm

●「科研費審査システム改革2018」の概要

科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、 多様かつ独創的な学術研究を振興する

現行の審査システム (平成29年度助成)

最大400余の細目等で 公募・審査

細目数は321、応募件数が最多の「基盤研究(C)」はキーワードによりさらに細分化した432の審査区分で審査。

基盤研究(S)
基盤研究(A)
(B)
(C)
若手研究(A)
(B)

- ほとんどの研究種目で、細目ごとに同様の審査を実施。
- 書面審査と合議審査を異なる審査委員が実施する2段階審査方式。

※「挑戦的萌芽研究」を発展・見直し、平成29年度公募から新設した「挑戦的研究」では、「中区分」を使用するとともに「総合審査」を先行実施。

「分科細目表」
を廃止

新たな審査システムへ移行

新たな審査区分と審査方式による公募・審査 平成30年度助成(平成29年9月公募)～

大区分(11)で公募・審査

中区分を複数集めた審査区分

基盤研究(S)

中区分(65)で公募・審査

小区分を複数集めた審査区分

基盤研究(A)

挑戦的研究

小区分(306)で公募・審査

これまで醸成されてきた多様な学術に対応する審査区分

基盤研究(B)

(C)

若手研究

「総合審査」方式 –より多角的に–

個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。

※「基盤研究(S)」については、「審査意見書」を活用。

・特定分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。

・改善点(審査コメント)をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。

「2段階書面審査」方式 –より効率的に–

同一の審査委員が電子システム上で2段階にわたり書面審査を実施し、採否を決定。

・他の審査委員の評価を踏まえ、自身の評価結果の再検討。

・会議体としての合議審査を実施しないため審査の効率化。

注) 人文社会・理工・生物等の「系」単位で審査を行っている大規模研究種目（「特別推進研究」、「新学術領域研究」）の審査区分は基本的に現行どおり実施する。

審査方式については、当該種目の見直しの進捗を踏まえて逐次改善する予定。

平成29年度科学研究費助成事業の採択課題の公表

平成29年度科学研究費助成事業の採択課題については、国立情報学研究所の科学研究費助成事業データベースで公開しています。

科学研究費助成事業データベースでは、過去の研究実績や研究成果の概要も公開しています。（採択課題については昭和40年度分から、研究実績や研究成果の概要については昭和60年度分からのデータを収録しています。）

詳細については、以下のホームページをご覧ください。

- 国立情報学研究所 科学研究費助成事業データベース <https://kaken.nii.ac.jp/>

科研費ハンドブック（研究者用・研究機関用）2017年度版の発行

文部科学省及び日本学術振興会では、科学研究費助成事業をよりよくご理解いただくために、科研費ハンドブック（研究者用・研究機関用）を発行しています。

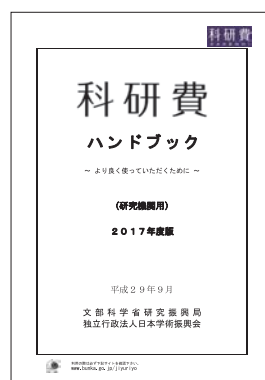
このたび、ハンドブックの2017年度版を発行しました。

以下のホームページより閲覧可能となっていますので、ご活用ください。

- 科研費ハンドブック http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/15_hand/index.html



科研費ハンドブック（研究者用）



科研費ハンドブック（研究機関用）

平成29年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞の表彰

この表彰は、ひらめき☆ときめきサイエンスにおいて継続的に本プログラムを実施し、我が国の将来を担う子どもたちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えるとともに、科研費による研究成果を積極的に社会・国民に発信することを奨励することを目的としています。

今年度は、日本学術振興会に置く研究成果の社会還元・普及事業推進委員会で選定した20名の研究者を表彰しました。詳細については、以下のホームページをご覧ください。

- ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞 https://www.jsps.go.jp/hirameki/10_suisin.html

小・中・高校生のための プログラム



K A K E N H I

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、科学研究費助成事業により行われている、研究者個人の独創的・先駆的な学術研究の成果を、全国各地の大学、高等専門学校その他の研究機関において、小学5・6年生、中学生、高校生を対象として、研究者自身が分かりやすく情報発信するプログラムです。

平成28年度には、児童生徒の他引率の保護者・学校教員等を含め9,500名弱の参加がありました。

○平成28年度に実施されたプログラムの事例紹介

『のぞいてみよう海の底、北海道の魚たちをまるごとリサーチ』

宗原 弘幸（北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター・准教授）

シュノーケリングを使って海中観察しながら海や魚類の特徴を学び、地引網で採集した標本をスケッチして図鑑を作成しました。



『漢方薬の秘められた謎を追え！～体験型実習を通して学ぶ漢方薬の有効性～』

加藤 敦（富山大学・附属病院薬剤部・准教授）

五感を使って生薬の特徴を学んだり、生薬の成分を用いた実験をしたりすることで漢方薬が効くひみつを解き明かしました。

『本を残す 本を伝える～書籍の保存と修復～』

福島 知己（一橋大学・社会科学古典資料センター・助手）

貴重な本が保管されている書庫を見学したり、修復作業や製本を体験したりすることで、書物の保存や修復の重要性を知りました。



平成29年度も、夏休みを中心に、7月下旬から翌年1月末までの間、児童生徒が全国各地の170にわたる大学等の研究室を訪問し、実験やフィールドワークなどを実際に体験して、最先端の研究成果を直に見て・聞き・触れることができる341件の訪問体験型プログラムを用意しています。

また、受講を希望する児童生徒が在学する学校に限らず近隣の学校も含め、学校教員の参観・見学を積極的に受け付けています。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」ホームページをご覧ください。

Q ひら☆とき

検索